

カラフトモモブトハバチ

変な虫がいる。と「森しり隊」の子供たちが指さす先にいたのがカラフトモモブトハバチの幼虫でした。画像の記録は2016年7月31日11時16分でした。澄川基地の奥の物置脇のテーブルに一番近いシラカバの幹、地面近くに張り付いていました。この虫は以前に見たことがありまして記憶を呼び起こして、ハバチの幼虫だと答えておきました。帰宅して表記の和名であることを確認しました。

分類上はハチ目、コンボウバチ科で図鑑「札幌の昆虫」には6種類が記載されています。触角が棍棒の形をしていることからの科名です。ハバチ仲間うちでは大型で、この虫の成虫は22～26mmの大きさです。出現時期は5～7月。幼虫の食草はシラカバ等カバ類の葉ですから澄川の住虫です。

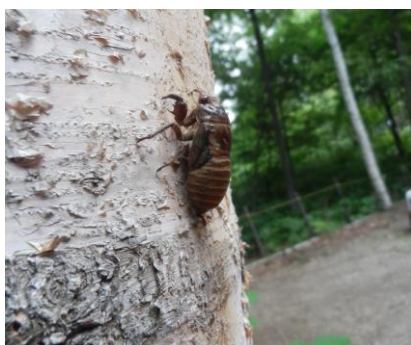


ハバチたちは植物の葉を主食とし、進化の過程では原始的存在とのこと。体形はいわゆる針で刺すハチたちとはかなり違い左の写真のとおり、ずん胴でむしろハエのような感じです。

分布は食草であるシラカバのそれに重なり、名前にあるように樺太(サハリン)、南千島から朝鮮半島および日本では北海道と本州、四国のカバ類の生育地域です。

右はこの虫の繭でして、林床の落葉の下で、繭をつくり蛹になって、羽化を待ちます。

「森しり隊」隊員の子供たちは、さすがに目ざとく、いろいろな虫を見つけてくれます。そのほとんどはこれまでに紹介してきたお馴染みの面々でありましたので、改めての紹介はいたしません、次回



への期待がふくらみます。虫たちにたいしても皆々優しく、地中から這い出してきた蛹状のセミを見つけた子供は、カラフトモモブトハバチの幼虫が止まっていたシラカバの樹幹にとまらせて、ゆっくり登り上がるのを観察させてくれました。明日の朝までには無事に羽化してくれるでしょう。

